

救い主の洗礼**ルカ3:15~17、21~22 / 李正雨師**

今日は主の洗礼主日です。ここにいらっしゃる方々は、ほとんど洗礼をお受けになっていると思います。私は主の導きの中でやっと洗礼を受け、教会の一員になり、今、このように説教をしています。私も洗礼を受けましたから、誰でも洗礼を受けることができると思います。洗礼は、クリスチャンになる儀式です。今は過去とは違い、洗礼教育の期間が短いですが、初代教会の時代には、数年の教育を受けなければ洗礼を受けることができなかつたそうです。1~2世紀ごろに書かれた「ディダケー」、「使徒たちの教え」という本を見ると、洗礼のためには、受洗者だけでなく、教会全体が断食しなさいと書かれています。（今は、必ず断食をしなさいではないわけではないので、いかに幸いなことでしょうか。）それほど、洗礼は教会にとって重要な儀式の一つでした。そして洗礼を受けると、教会の一員としての義務と権利が与えられました。義務の一つは、自分のものを分けることであり、権利の一つは、教会からパンとぶどう酒、蜂蜜と牛乳などを与えられるということでした。このことによると、初代教会の人々は、自分のものを積極的に分けていたということが分かりますね。このように、私たち教会にとっての洗礼は、クリスチャンになる儀式であり、教会の一員として一緒にいる過程でした。もちろん多くのことが変わりましたが、この洗礼の精神は今でも変わらないと思います。洗礼を通して罪を赦され、教会の共同体の一員として主に従って生きていくこと。これが私たちが受けた洗礼の意味だと思います。

今日の福音書にも、洗礼について書かれています。しかし、この洗礼は私たちの洗礼とちょっと違います。神の子の洗礼、すなわちイエスさまの洗礼のことです。イエスさまの洗礼は、過去から現在に至るまで、いろいろな質問と疑問を引き起こしてきました。果たしてイエスさまは洗礼が必要だったのか？ なぜイエスさまは洗礼者ヨハネから洗礼を受けたのか？ なぜ洗礼者ヨハネは、メシアの聖霊と火の洗礼について語ったのか？ など、イエスさまの洗礼には気になることが多いです。イエスさまの洗礼には、どんな意味があるのでしょうか。これからイエスさまの洗礼について調べてみましょう。

イエスさまの洗礼については、いろいろな意見がありますが、2つくらいにまとめることができると思います。一つは、イエスさまの洗礼は、一般的な洗礼ではなく、王の戴冠式のような洗礼であったということです。今日の福音書21~22節には、イエスさまの洗礼の時に起こったことが書かれています。「**天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た。すると、『あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者』という声が、天から聞こえた。**」イエスさまの洗礼式には、特別なことが起こりましたが、聖霊がイエスさまの上に臨在し、神さまの声が聞こえたということです。このようなことは、一般的な洗礼では起こっていないことですよね。そして、神さまの声を示されているのは、洗礼の罪の赦しとは違ったことでした。神さまの愛する子ということ、ご自分の心に適う者ということでした。罪や赦し、世の子から神の子になったという言葉などはありませんでした。それで人々は、このイエスさまの洗礼をメシアとして認められる儀式だと思いました。そしてイエスさまのメシアとしての公的な生涯は、この洗礼によって始まったので、人々はこの洗礼をメシアの戴冠式と思いました。

イエスさまの洗礼についてのもう一つの意見は、このイエスさまの洗礼を人間の代表者の洗礼として見ることです。イエスさまは洗礼が必要ない方でした。創造の時から神さまと共におられ、「言、ロゴス」として存在しておられたからです。しかし、イエスさまが洗礼者ヨハネに洗礼を受けられたとき、人々は、この洗礼は人間を代表して受けられたものだと思いました。これは、イエスさまが十字架につけられたことと意味を共にすることだと言えます。イエスさまは罪はありませんが、代表者として洗礼を受けられました。そ

れでマタイによる福音書3章14節を見ると、洗礼者ヨハネがイエスさまに思いとどまらせる様子が書かれています。洗礼者ヨハネはイエスさまにこう言います。「わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか。」すると、イエスさまはこのようにおっしゃいます。「今は、止めないでほしい、正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」もしイエスさまの洗礼がメシアの戴冠式であれば、洗礼者ヨハネが思いとどまらせる理由はなかったでしょう。イエスさまの戴冠式に参加ができるということだけでも、栄光だと思ったかもしれません。イエスさまは、ご自分の洗礼を「正しいことを行うこと」と言われました。これは、イエスさまの洗礼が私たちみんなのための洗礼であることを示すことだと思えます。つまりイエスさまは、自ら私たちの立場になられ、人間の代表として洗礼を受けられたのです。そしてこの洗礼式に聖霊と神さまが共におられ、イエスさまは、ご自分の洗礼を通して、私たちの代表者になってくださいました。

イエスさまの洗礼についていろいろ調べてみましたが、私は、イエスさまの洗礼がメシアとしての戴冠式であっても、私たちの代表者としての洗礼であっても、大きな違いはないと思えます。大切なことは、イエスさまが私たちのためにこの世に来られ、私たちのために洗礼を受けられたということです。イエスさまの洗礼は公的なものであり、正しいことを行うことでした。神さまは、イエスさまの洗礼を通して、この世に救いが臨まれたことを示されました。そしてこの救いの旅路は、イエスさまだけがついたのでありません。22節に書かれているように、三位の神さまが共におられました。父、御子、御霊が共にこの世を創造されたように、私たちの救いを成し遂げるためにも、共に協力されたのです。ですから、私たちの救いは、決して簡単なことでも、軽いものでもありません。私たちが私たちの力で得られるようなものではありません。律法を守って、善を行うことによって救われるのではなく、ただイエスさまによって救われるのです。イエスさまはこれを成し遂げるために、自らこの世に来られ、私たちのために洗礼を受けられ、私たちのメシアになりました。そしてメシアとして、私たちの代表者として、十字架につけられました。それでイエスさまの洗礼は、イエスさまご自分のためのものではなく、私たちのためのものだったと言えます。私たちのための洗礼、これがイエスさまの洗礼の意味なのです。

最後に、洗礼者ヨハネが言ったメシアの火と聖霊の洗礼について調べてみましょう。今日の福音書16節で、洗礼者ヨハネは、メシアの洗礼を聖霊と火の洗礼だと言います。そして17節ではこう言います。「手に箕をもって、脱穀場を隅々まできれいにし、麦を集めて倉に入れ、殻を消えることのない火で焼き払われる。」この言葉を一読すると、とても怖い言葉のようです。人々を消えることのない火に焼き払うメシアが来るといふ言葉のようです。しかし、旧約聖書のイザヤ書を見ると、この火のメッセージは浄化すること、きれいにするイメージを持っています。つまり、メシヤが来られて人々をきれいにしてくださるという意味です。メシアは、聖霊と火の洗礼によって汚れたもの、罪と偽りと貪欲などからきれいにしてくださいます。そして、イエスさまの御名によって洗礼を受けた人々は、何が正しいのか、何が間違っているのか、何を求めて生きなければならないのかが分かるようになるのです。イエスさまが罪からきれいに、自由にしてくださったからです。また、聖霊が洗礼を受けた人と共におられるからです。

私たちのために洗礼を受けたイエスさまは、ご自分の御名によって洗礼を受ける人々をきれいにしてくださいます。私たちが神さまの子になれますように、神の国にふさわしい人々になれるようにしてくださいます。これが救い主の洗礼の恵みであり、意味だと思えます。説教が終わると、私たちは聖餐を共に行います。聖餐のさまざまな意味の一つは、自分が受けた洗礼を覚えることです。今日、聖餐を通して皆様を受けられた洗礼を覚えてください。その洗礼と今日の聖餐が皆様にきれいにし、御言葉に従って生きることができるようにしてくれるのです。私と皆様のために、イエスさまは洗礼をお受けになりました。この洗礼の喜びと感謝が、いつまでも私たちと洗礼を受ける人々と共にありますように、主の御名によって祈ります。アーメン